

宅地造成等工事規制区域、特定盛土等規制区域における 造成行為に関するお願い

京都市では、宅地造成及び特定盛土等規制法（通称：盛土規制法）に基づき、令和6年6月6日から市内全域を宅地造成等工事規制区域、特定盛土等規制区域に指定しています。この法律は宅地、農地、森林等の土地の用途にかかわらず、危険な盛土等を全国一律の基準で包括的に規制するものとなっております。

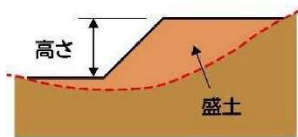
例えば、以下のような行為を行う場合、規制の対象となります。

赤文字 宅地造成等工事規制区域において許可対象
特定盛土等規制区域において届出対象

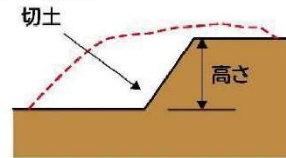
青文字 特定盛土等規制区域において許可対象

■土地の形質の変更(盛土・切土)

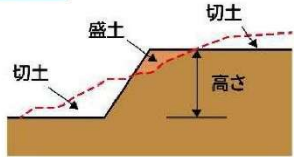
①盛土で高さが **1m超** **2m超** の崖※を生ずるもの



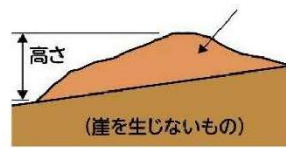
②切土で高さが **2m超** **5m超** の崖を生ずるもの



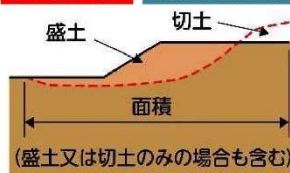
③盛土と切土を同時に行い、高さが **2m超** **5m超** の崖を生ずるもの(①、②を除く)



④盛土で高さが **2m超** **5m超** となるもの(①、③を除く)



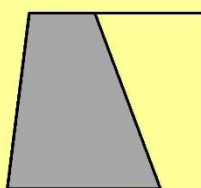
⑤盛土又は切土をする土地の面積が **500m²超** **3,000m²超** となるもの(①~④を除く)



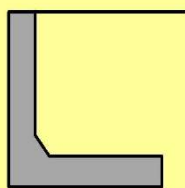
※「崖」とは、地表面が水平面に対し30度を超える角度をなす土地で、硬岩盤（風化の著しいものを除く）以外のものをいいます。

①~③のような崖が生じた場合、構造上安全な擁壁等により土留めをする必要があり、必ず許可を受けなければなりません。

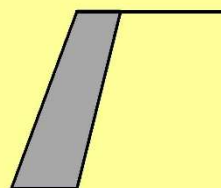
(擁壁の例)



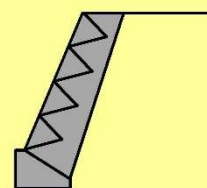
重力式擁壁



L型擁壁



もたれ式擁壁

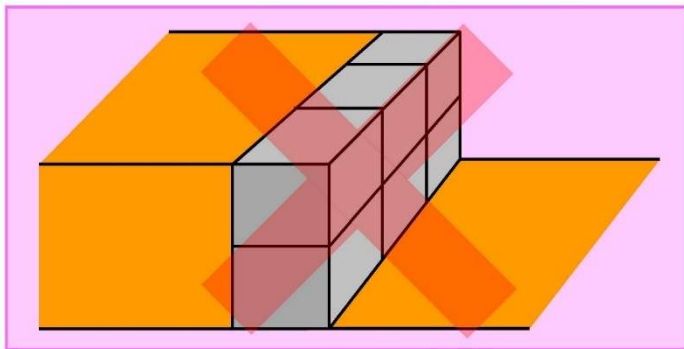


練積み擁壁

ところが、近年、生コン工場等で販売されている約1 m四方の角型コンクリートブロック（通称：リューベコン）を段積みし、擁壁として流用しているケースが多く見受けられます。

このような構造は、構造計算等により安全が保証（確認）されたものではなく、特に地震災害等において、崩壊の危険性があります。

そのため、規制の対象となる崖の擁壁としてリューベコンを絶対に使用しないようお願いします。



なお、このような構造は、盛土規制法だけではなく、建築基準法、風致地区条例等、他法令にも抵触する可能性がありますので、ご注意ください。

規制区域の範囲は、インターネットにより [🔍京都市 盛土規制法](#) と検索し、「宅地造成及び特定盛土等規制法（盛土規制法）」ページの「規制区域図」をご覧ください。開発指導課の窓口でお問い合わせください。

※お問い合わせ先

都市計画局 都市景観部 開発指導課 電話：075-222-3558